

産婦人科

概要

部長：吉岡 信也

スタッフ：15名

専攻医：5名

施設認定：日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設、日本婦人科腫瘍学会専門医修練施設、日本周産期・新生児学会研修基幹施設、日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設、日本女性医学学会、女性ヘルスケア専門医認定研修施設、総合周産期母子医療センター、地域がん拠点病院、母体保護法指定医師研修医療機関

診療実績（令和1年）：

手術総数：1,379件

悪性腫瘍手術：163件

腹腔鏡：465件（内ロボット手術17件）

分娩数：807件（うち帝王切開：306件、多胎分娩：37件）

母体搬送受け入れ件数：221件

特徴

産婦人科の subspeciality 分野ほぼ全ての分野における専門医が在籍し

腫瘍・婦人科部門

神戸市の中心的癌治療施設であり、日本婦人科腫瘍学会専門医修練施設として高度な癌手術・集学的治療を研修できる。また産婦人科内視鏡学会認定指導医のもとで腹腔鏡・子宮鏡手術を多症例研修できる。

周産期部門

南兵庫圏の総合周産期センターかつ日本周産期・新生児学会研修基幹施設であり、様々な合併症妊娠・異常分娩が学べる。多くの母体搬送を受け入れており産科救急の研修が十分できる。

生殖医療部門

子宮内膜症、子宮筋腫、卵管疾患などに対する腹腔鏡や子宮鏡による手術を多数例研修できる。

産婦人科救急

神戸市全域より 1~3 次救急を 24 時間受け入れているため、3 年間でほとんどの産婦人科救急疾患の治療が体得できる。

学会活動

専攻医の期間中は、年に 2 回以上の学会発表を行い、また 3 年間で 2 編程度の論文を作成することを目標とする。

研修終了後の進路

当科または、関連病院の産婦人科スタッフとして責任をもって推薦・紹介する。大学に進学し大学院生や研究生として研究したり、留学したりすることも可能である。研修終了時に各自に希望の病院があれば、推薦する。若い産婦人科医は全国的に非常に不足しており、スタッフを募集する病院・入局を歓迎する大学病院が多い。

一般目標

腫瘍・婦人科、周産期、生殖医療、さらに産婦人科救急疾患の代表的な疾患の実践的診療を体得する。全国的に産婦人科医が不足し、社会的問題となっているが、産婦人科専門医としてこれからの日本の産婦人科医療に貢献できる人材を育成する。研修終了の段階で、日本産婦人科学会認定専門医の資格申請を行う。

行動目標

(1) 腫瘍・婦人科

良性疾患では、単純子宮全摘除術などの開腹手術が執刀でき、卵巣腫瘍や子宮筋腫などの腹腔鏡下手術ができるようになる。悪性疾患では、悪性腫瘍手術を含めた総合的管理、化学療法、放射線療法を体得し、広汎子宮全摘出術・傍大動脈リンパ節郭清などの前立ちができるようになる。

(2) 周産期

正常分娩および代表的な異常分娩が取り扱えるようになる。とくに母体、胎児の切迫した危険性が、遅滞なく把握でき、対応できるようになる。吸引分娩、緊急帝王切開などの急速遂娩の判断と実行ができるようになる。また産科的多量出血・ショック・DIC などに対応できるようになる。

(3) 生殖医学

不妊症患者の子宮内膜症、子宮筋腫、卵管疾患などに対して、治療の適応を理解でき、その上で診断・治療を行えるようになる。体外受精などの高度生殖医療は連携施設で研修を行う。

(4) 産婦人科救急

産婦人科救急疾患に単独で初期対応できるようになる。とくに全身管理・緊急手術などの迅速な判断と実行が出来る。

週間スケジュール

- ・毎朝：ミーティング・症例検討会
 - ・月曜：放射線カンファレンス（放射線診断科・放射線治療科合同）
 - ・火曜：学会予演会・報告会、産科回診、手術カンファレンス、
周産期カンファレンス（NICU 合同）
 - ・水曜：婦人科回診・術前カンファレンス
 - ・木曜：勉強会・腫瘍カンファレンス（臨床病理部、腫瘍内科合同）
 - ・金曜：術前カンファレンス
 - ・定期手術日：月曜～金曜
 - ・外来担当：週 1～2 日
 - ・当直：週 1～2 回
- 外来と当直への参加については、各自の経験と熟練度に応じてその時期を決める。

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院産婦人科研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

吉岡 信也 : obgyn@kcho.jp